

# 三和の風

平成29年1月25日

NO.17

## 教師のコミュニケーションスキルを高めるために

### 授業場面でのコミュニケーションスキル

#### ア) 受容技法

「なるほど」「うん うん」とうなずいたり、「それで」と促しながら、受けとめること。

#### イ) 繰り返し技法

「お腹が痛い」と子どもが言えば「痛いんだ」と単語や単文を繰り返す。肯定的なキーワードを繰り返すのがコツ。

#### ウ) 明確化技法

「要するに〇〇ということですね」と子どもがうすうす感じていることを教師が言語化（言葉に）してあげる。

#### エ) 支持技法

「がんばったなあ」「私も同感」と子どもにエールを送り、励ますことである。  
いかに子どもに「元気」と「自信」を与えるかがコツである。

### 授業に生かすカウンセリング

#### ア) 信頼関係の形成

- ・授業以外でのかかわりを大切にする。
- ・授業の始めに、表情や態度の気になった生徒にさりげなく声をかける。

#### イ) こころのエネルギーの補給

- ・生徒が伸び伸び発言できるような雰囲気づくりや言葉掛け、態度を心がける。
- ・いやみや皮肉、他生徒との比較など、生徒の心をかき乱す言葉を使わ

ない。

- ・たとえ不完全な答えであっても、その中にあらわれた生徒の良さを認める。
- ・答えのつまった生徒には、ゆったり待つようにする。
- ・教えている自分が楽しくなるような授業を心がける。
- ・頭だけでなく、こころに響いてなんらかの感動を覚えるような授業を心がける。
- ・今、この授業で何を狙っているか、どんな位置づけになるのか、授業の意味を常に生徒に伝える。

#### ウ) コンフロンテーション（対決）

- ・授業のルールをきちんと示し、授業をかき乱す場合は放任せず、はっきり注意する。
- ・何が問題なのか生徒が自分の問題に直面できるよう問いかける。

### 対話のある授業の3要素

#### ア) わかりやすい授業＝「わかる」授業の創造

わからないことに、まずは直面させる。

次に、わかるために、何を、どんな方法でやればいいのかを簡単、明瞭に触れる。

#### イ) ためになる授業＝「できる」授業の創造

ためになる授業とは「なるほど」と子どもがうなずき、納得する授業。  
生徒が理解できないからといってレベルを下げていくと、逆にプライドを下げて生徒がのってこないことがある。

#### ウ) 面白い授業＝「楽しい授業」の創造

面白い授業とは、「オヤッ」と子どもが思い、「ワクワク」する授業である。子どもが面白さを感じるのであり、教師からすれば子どもの心を揺さぶり、開かせることになる。